

中央大学国際経営学部 企業訪問報告書

調査テーマ	ロイヤルホールディングスで行われている多角化について
調査日	12月3日
調査先	ロイヤルホールディングス株式会社
担当 CVS	松野 雄一郎、小林 城司、永田 葉結希
授業科目/学部企画名	訪問調査「企業訪問」
参加学生数(学年)	1年生 11人、2年生 6人
調査趣旨・目的	ロイヤルホールディングスが行う多角経営と、今後の経営計画について学びました。
調査結果	<p>私たちは、ロイヤルマネジメント株式会社東京本部にお邪魔し、同社の経営戦略や歴史について詳しくお話を伺いました。ロイヤルホールディングス株式会社は、外食産業を中心に多角的な事業展開を行う企業であり、主なブランドには「ロイヤルホスト」や「天丼てんや」があります。また、同社は「リッチモンドホテル」などのホテル事業や、空港、高速道路のサービスエリアにおけるコントラクト事業にも力を入れており、多様な分野で確固たる地位を築いています。</p> <p>ロイヤルホールディングス株式会社の歴史は 1950 年の設立にまで遡り、70 年以上にわたる歩みの中で数々の賞を受賞し、多くの人々に愛されるブランドを生み出してきました。同社が進める事業の多角化は、リスク分散の観点から非常に有効であると考えられます。しかし、事業の根幹が外食産業やホテル、高速道路や空港など、人の移動に依存するものであったため、新型コロナウイルスの流行による影響は避けられず、大きな打撃を受けたとのこと。この厳しい状況下で、同社は「ロイヤルデリ」というデリバリーサービスを新たに立ち上げ、「人が動けないのであれば、こちらから届ける」という柔軟な発想で課題を乗り越える姿勢を示しました。</p> <p>ロイヤルホールディングスでは、経営において「QSC+A」という考え方を重視しています。この理念は、品質 (Quality)、接客 (Service)、清潔さ (Cleanliness)、そして雰囲気 (Atmosphere) を指し、これらすべての要素で顧客に満足していただけるサービスを提供することを目標としています。特に、競争が激しい外食産業において、これらの点で競合との差別化を図る姿勢が、同社の強みであると感じました。</p> <p>さらに、社員教育にも注力しており、新入社員は必ず製造ラインでの勤務や店舗の店長業務を経験することで、現場の実態を理解することが求められます。このように、現場を知ることが企業活動の基盤であるという考え方が、企業全体に浸透している点が印象的でした。</p> <p>ロイヤルホールディングスでは、社員の意欲や悩みに寄り添うため、公募</p>

制や面談制度を導入しています。これにより、社員一人ひとりが自分のキャリアや目標に沿った形で働くことができる環境が整えられています。

また、同社は少子化や円安といった国内の経済的課題に対応するため、海外進出を視野に入れています。この挑戦は、これまで培ってきた経験やノウハウを活かしつつ、新たな市場に対応する柔軟な発想が求められるものです。同社では「0 から 1 を生み出すことが好きな人」がこの挑戦に向いていると教えていただきました。

今回の訪問を通じて、ロイヤルホールディングスの経営戦略や柔軟な対応力に感銘を受けました。特に、現場を重視し、社員を大切にする姿勢が企業の強さと信頼につながっていると感じました。また、コロナ禍という困難な状況においても、デリバリーサービスの開始など新たな挑戦に取り組む姿勢は、今後のキャリア形成においても参考となるものでした。

これからのロイヤルホールディングスがどのように新たな市場で成長を遂げていくのか、引き続き注目していきたいと思えます。

※調査時の写真



学生から集めた質問に答えていただきました。



最後に再度集合写真を撮影して締めくくりました。貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。